

令和7年（第70回）秋田県文化功労者

（年齢順、敬称略）

教 民生・社会福祉	育 （社会教育、社会福祉の 発展・指導）	小 玉 喜久子
--------------	----------------------------	---------

技	芸 （民謡の普及・指導）	佐 藤 祐 幸
---	-----------------	---------

技	芸 （華道の普及・振興）	寺 田 美恵子
---	-----------------	---------

教 産 保 健 衛	育 業 生 （産 業 の 振 興）	佐 野 元 彦
-----------------	-------------------------	---------

学 教	芸 育 （近代文学史の研究）	高 橋 秀 晴
--------	----------------------	---------

学	芸 （美術文化の向上と発展）	秋田美術作家協会
---	-------------------	----------



社会教育、社会福祉の 発展・指導

こ だま き く こ
小 玉 喜 久 子

(88歳)

住 所 潟上市

「積極的に社会参加した方がいい」という長男の言葉から、婦人会や赤十字などの地域活動を始めた。

秋田県地域婦人団体連絡協議会会長として16年間、全県各地域婦人会同士の連絡協調、指導者の育成に尽力したほか、社会教育などの分野を拠点に、広く地域の関係団体等と連携・協働した「安全・安心な地域づくり」の推進を長く牽引するなど、県内地域婦人活動を確立した功績は大なるものがある。

また、高齢者施設でのボランティア活動や、献血・募金の呼びかけ、健康学習会、防災セミナーや各種赤十字講習の開催、地元小学校での米作り・郷土料理づくりなど、地域に根ざした様々な赤十字活動を推進した。平成19年から令和5年までは、赤十字奉仕団秋田県支部委員会委員長を務め、全県の奉仕団の先頭に立ち、多くの奉仕団員の模範となり、地域の奉仕活動の活性化に大きく寄与した。このような功績が認められ、文部科学省平成19年度社会教育功労者表彰及び平成28年春の叙勲で旭日双光章を授与された。



民謡の普及・指導

さ　　とう　　ゆう　　こう
佐　　藤　　祐　　幸

(84歳)

住　所　　秋田市

幼少の頃から民謡を好み、昭和62年に45歳で民謡歌手としてデビューして以来、約40年間にわたり活動している。

秋田県内の民謡習得に努力する一方、出身地である鹿角地方の民謡の発掘、習得、普及活動に尽力し、平成15年からは岩手県で少年少女民謡大会を継続開催し、秋田県では平成21年から平成22年にかけて県内小中学校で民謡普及推進活動を実施するなど、民謡界の課題である青少年の育成にも力を入れている。近年は高校生の郷土芸能活動の指導にも注力し、全県高校郷土芸能等発表会の審査員も務めている。そのほかにも、病院を訪問しての公演や赤十字主催のコンサートなどに長年参加し、民謡を通じた慈善活動を行っている。

これらの幅広い活動と功績により、県内民謡界の重鎮として各方面から高い評価を得ている。



華道の普及・振興

てら た み え こ
寺 田 美 恵 子

(82歳)

住 所 秋田市

昭和22年に初代家元である父によって創流された「竹青華道会」で幼少期から指導を受けはじめ、華道の道を志すようになる。平成6年に竹青華道会二世家元を継承してからも「品格を重んずる花」の精神を受け継ぎ、後進の指導・育成に努めるとともに竹青華道会のいけばな文化を伝えている。

平成14年から平成27年まで秋田県華道連盟会長を務め、県内18流派をまとめ、秋田県のいけばな界を牽引し、いけばなの向上発展に貢献してきた。現在も秋田県いけばな作家協会代表委員としていけばな展を企画開催し、自らも出展し続けている。

令和7年5月までは秋田県芸術文化協会会長を務め、秋田県芸能フェスティバルの開催や若者文化支援事業などを行い、本県芸術文化の普及・振興に寄与してきた。

斬新な発想と造形感覚で構成された作品は高く評価され、秋田華道の名を大いに高めており、長年にわたる文化団体での活動は、秋田県の芸術文化の普及・振興に大きく貢献し、社会的に高く評価されている。



産業の振興

さ の もと ひこ
佐 野 元 彦

(70歳)

住 所 秋田市

佐野薬品株式会社に入社後、株式会社サノ・ファーマシーなどの代表取締役社長を歴任し、地域医療を支える調剤・医薬品卸売小売業界の振興に努めている。

教育分野では、秋田県高等学校PTA連合会会長、一般社団法人全国高等学校PTA連合会会長を歴任し、より良い教育環境の創造に努めた。国際教養大学の理事としては大学運営に携わり、地域連携による学習機会導入の提案やイノベーションエコシステム実現への協力など、同大学の特色ある教育プログラムを支援した。

平成21年1月には、秋田プロバスケットボールクラブ株式会社を設立し、代表取締役会長に就任すると、北東北初のプロスポーツチーム誕生、Bリーグ参入を推進し、秋田ノーザンハピネッツ株式会社の基礎を構築した。バスケットボールの普及を通じて「スポーツ立県あきた」の実現に貢献し、地域に根差したプロスポーツチームとして夢と感動を与えるスポーツ文化を創造するなど、産業振興をはじめとしたあらゆる分野での振興発展に貢献している。



近代文学史の研究

たか はし ひで はる
高 橋 秀 晴

(68歳)

住 所 秋田市

大学院で日本近代文学を専攻したことを契機に、地元秋田県に関わる文学現象を対象とした研究活動を開始した。県内の高校・高専・大学に勤務しながら研究を進める一方、日本近代文学会・日本社会文学会・秋田風土文学会の役職(評議員・支部長・理事・会長等)を務めている。

具体的には、日本近代文学の発展を陰でリードした本県出身の出版人・編集者に着目し、その功績を正当に評価、『出版の魂／新潮社をつくった男・佐藤義亮』(牧野出版)、「望嶽楼の夢－滝田樗陰と近代文学者－」(『秋田魁新報』土曜文化欄連載／全68回)としてまとめた。

また、本県出身作家の調査・分析に尽力し、令和6年には、五城目町が所蔵する矢田津世子の遺品から小説「みぞれ」ほか複数の未発表原稿を特定して、『矢田津世子遺稿集／みぞれ』(五城目町教育委員会)の刊行につなげた。その他、県内を舞台とした作品の研究にも取り組み、『八郎潟文学誌』(秋田文化出版)等の単著を上梓している。



美術文化の向上と発展

あき た び じゅつ さっ か きょう かい
秋 田 美 術 作 家 協 会 (会長 **しお や しげ ひろ**
 住 所 秋田市

昭和28年、県内に美術館もまだなかった時代に秋田県の美術文化の向上と発展に寄与するために設立された。設立当初は会員数が16名であったが、現在では会員数が全県で95名にまで増加している。

昭和42年から毎年、秋田美術作家協会展覧会を開催し、県民に美術鑑賞の機会を提供しているほか、会員には美術教師がおり、学校の部活動や美術授業の一環として団体での来場があり、「高校生以下入場無料」の取り組みも効果を発揮し、次世代が美術作品に触れる機会を創出することで、秋田県の美術文化の向上に貢献している。

近年では、FacebookやInstagramでの情報発信、若い世代の会員による県内外での個展開催、作品発表、受賞歴、公募チラシの配布などが功を奏し、若い世代の公募者が増加傾向にある。